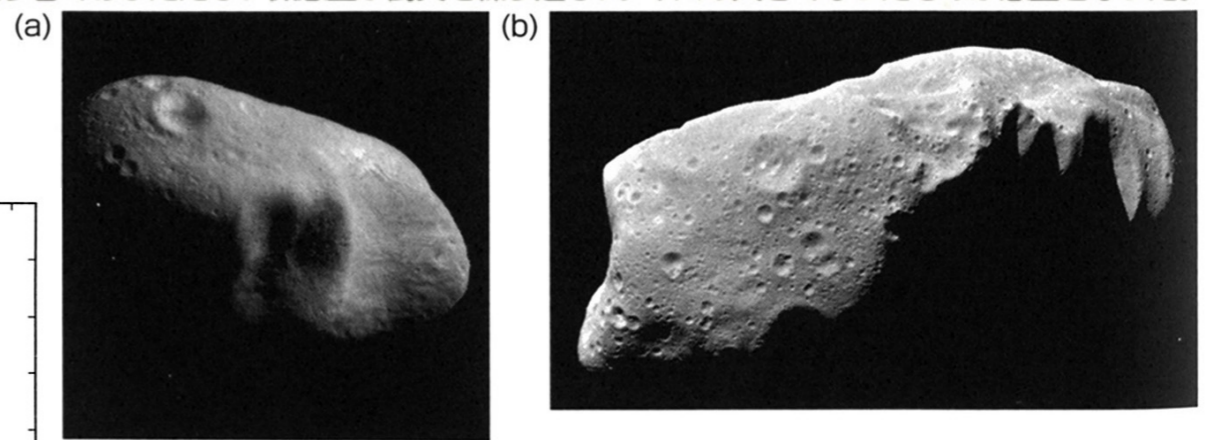


原始太陽を取り巻くおびただしい微惑星が衝突を繰り返し、サイズの大きくなったものが惑星となった。



a) 小惑星エロス (17.5×6.5km)
b) 小惑星イダ (58×23km)

図3-3 微惑星の衝突による地球の成長過程

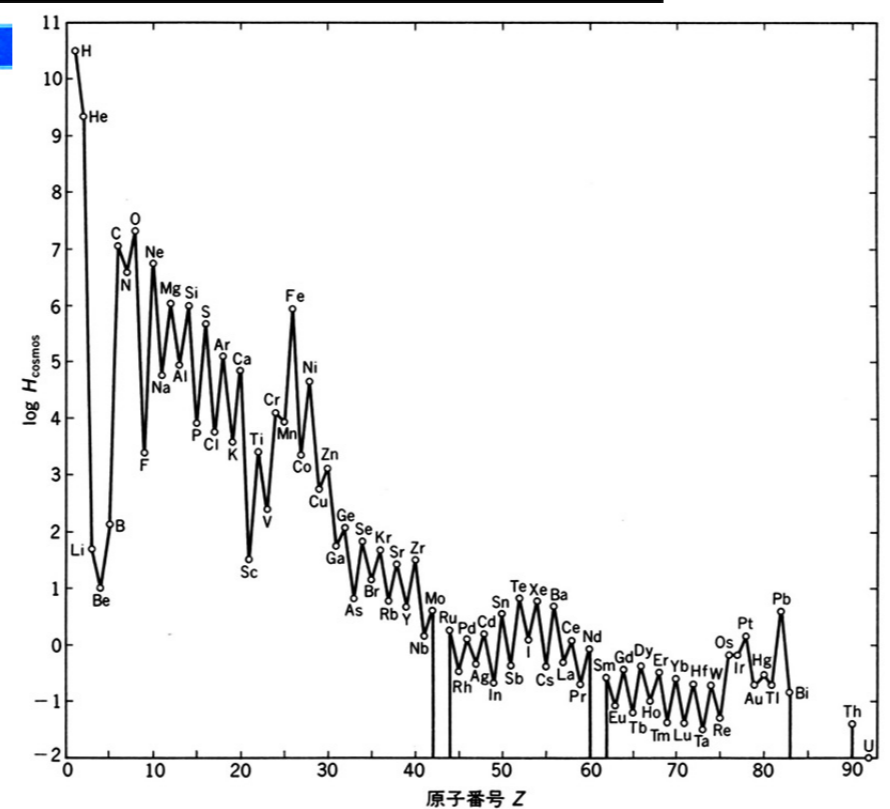
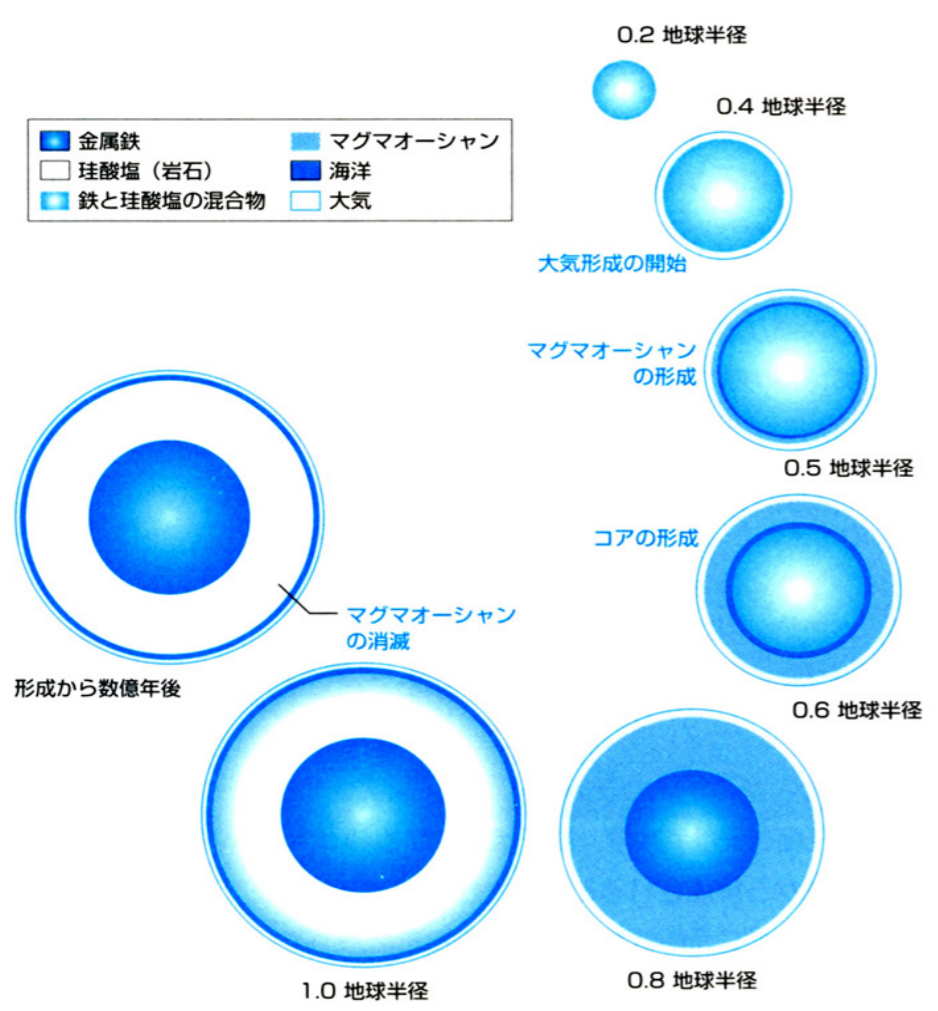
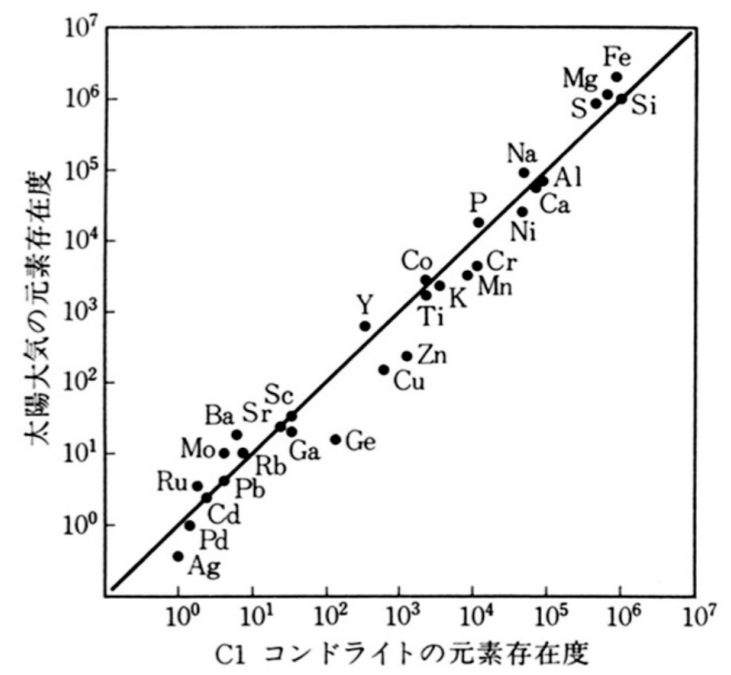
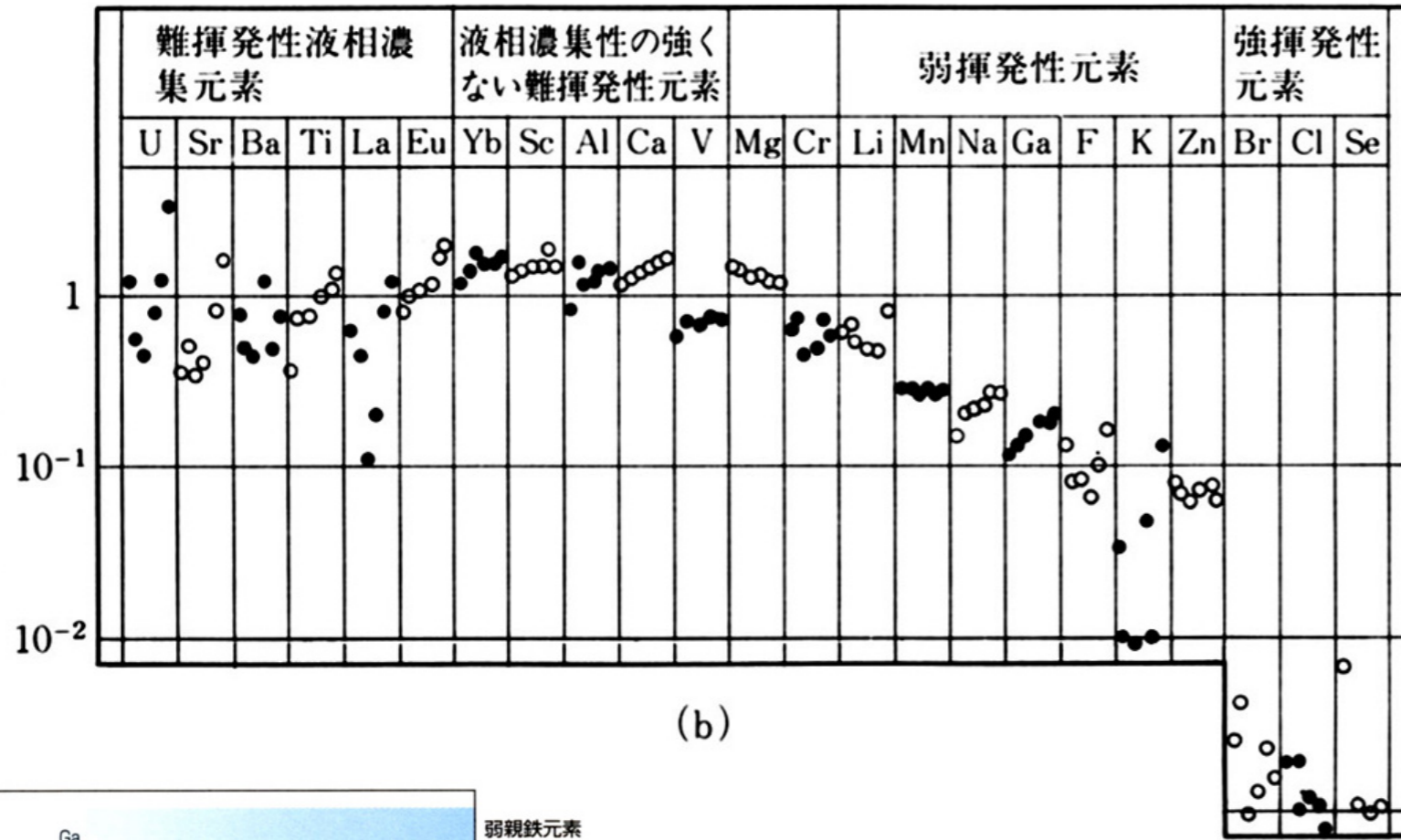


図 6.1 元素の宇宙存在度 H_{cosmos} と原子番号 Z との関係[4]. Si 原子の数を 10^6 に規格化してある. 存在度の数値(現在に対する値)は表 6.1 にかかげてある

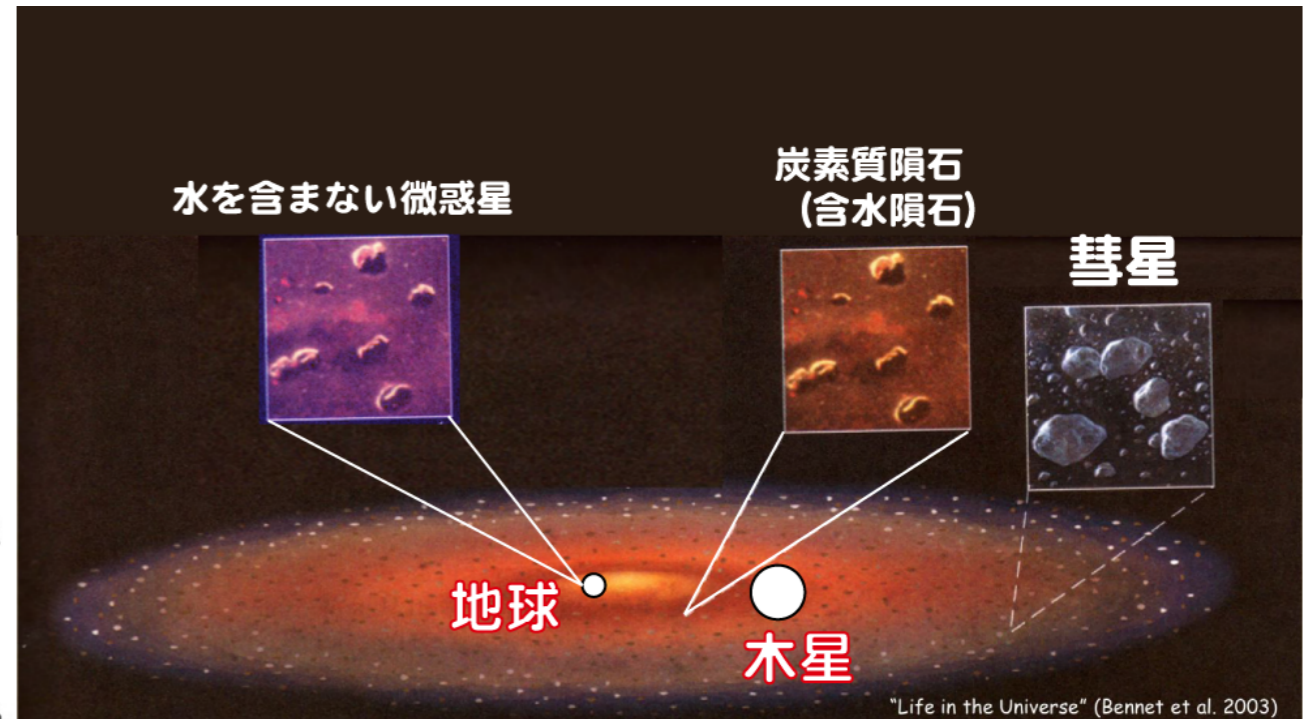


<http://ea.c.u-tokyo.ac.jp/earth/Members/komiya.html>

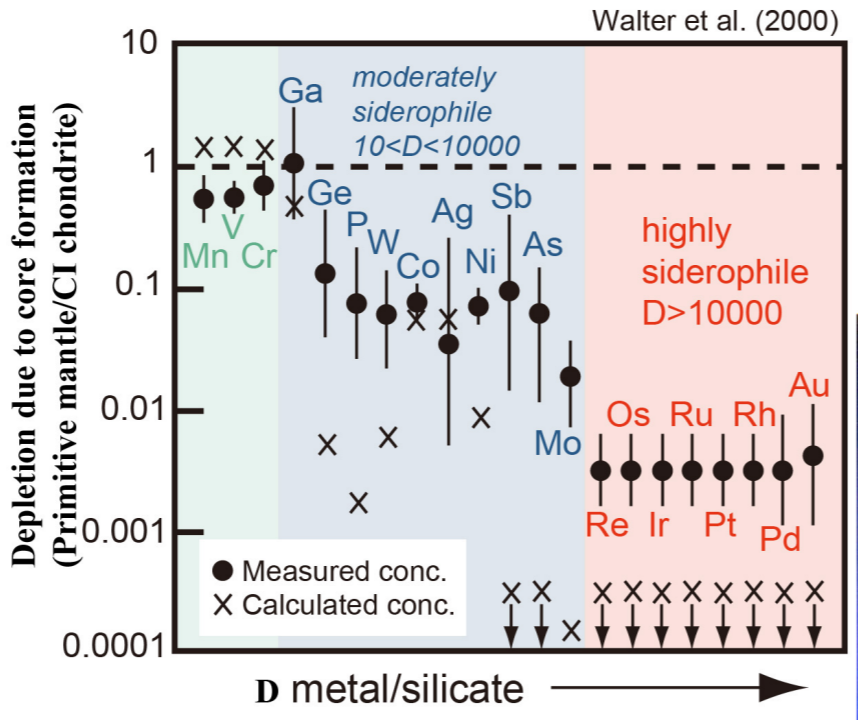
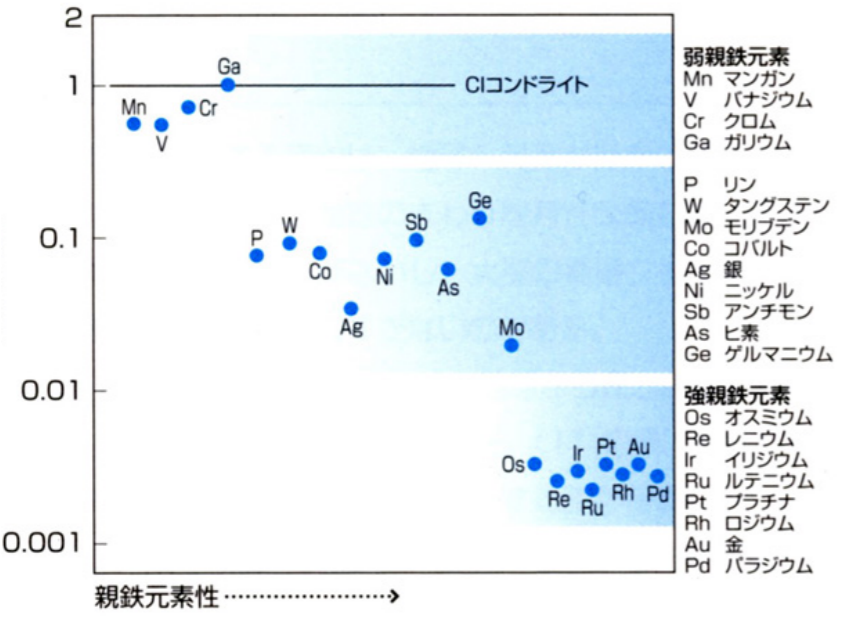
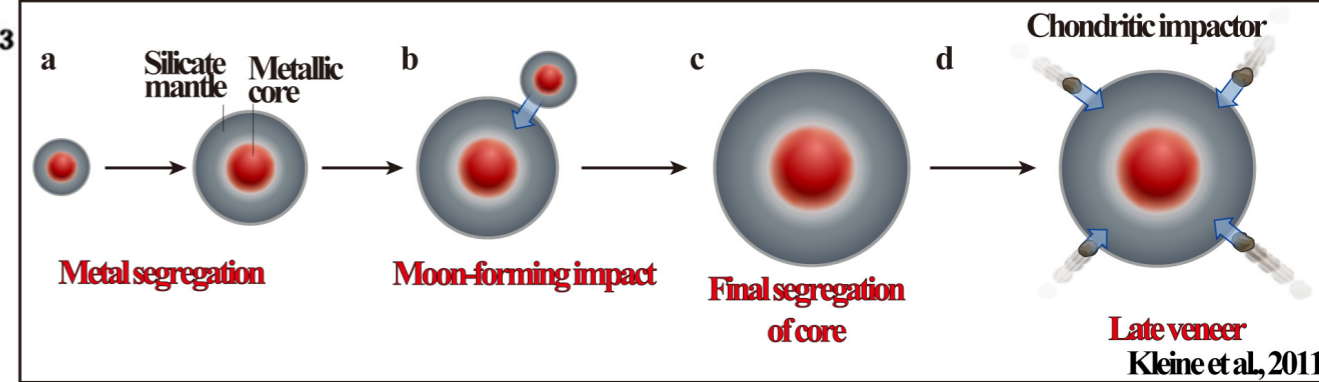
CIコンドライト隕石のSiに対して規格化した存在度



(b)



太陽-地球(1AU) 太陽-含水隕石(>2AU)
 太陽-火星(1.5AU) 太陽-木星(5AU)



(a)

